

第2回 鳥栖駅周辺デザインワーキンググループ (省略名称:鳥栖駅周辺デザインWG)

◆「第2回 鳥栖駅周辺デザインWG」を開催しました！

令和8年6月24日(水)に、「第2回 鳥栖駅周辺デザインWG」を開催しました。
今回のWGでは、これまでの振り返り、鳥栖駅周辺デザインWG「第1回 ワークショップ」の結果報告、鳥栖駅周辺の整備方針・使い方等についての意見交換を行いました。

開催概要

- ◇日 時: 令和8年6月24日(水) 14:00~16:45
- ◇会 場: サロンパス・アリーナ
- ◇参加メンバー: 学識者、デザイン有識者、地元スポーツ企業関係者、
商工関係代表者、商店街代表者、公共交通機関代表者
- オブザーバー: 佐賀県、鳥栖市



◆鳥栖駅周辺の整備方針・使い方等について

今回のWGでは、ワークショップにていただいたご意見を踏まえて鳥栖駅周辺のエリアごとのコンセプトについて検討しました。いただきましたご意見については、以下のとおりです。

■各エリアの整備の方向性について

【第1回ワークショップにおける結果概要(令和8年5月26日実施)】

鳥栖駅東側エリア

◆主な意見

- ・身近で誰もが気軽に楽しめるスポーツ空間があるとよい。
- ・導入施設は社会実験にて定着具合を見極め決定した方がよい。
- ・屋根設置や多目的設計で多様な世代や天候に対応しては。
- ・スポーツの当事者が主体的に管理・指導する体制が重要。
- ・プロ監修の整備で、大会も開催できる「聖地」を目指してほしい。
- ・カフェやバット同伴エリアを併設し、多様な層も呼び込む。

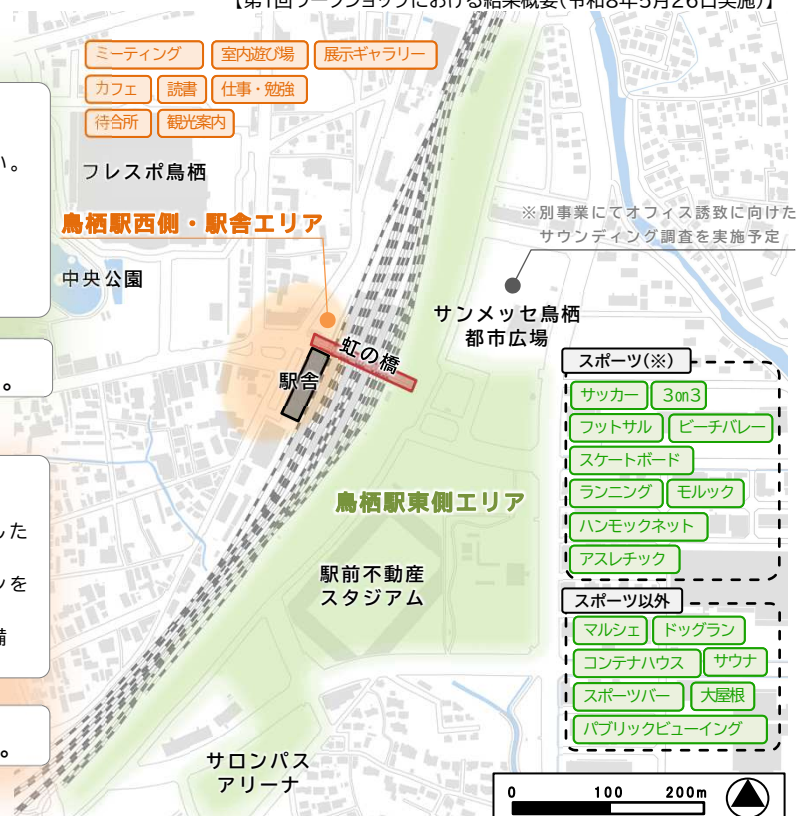
コンセプト: 多世代・多機能型スポーツを起点とした、
(案) 新たな日常と賑わいを育む持続可能な拠点。

鳥栖駅西側・駅舎エリア

◆主な意見

- ・図書館などの「静かな空間」で学習・待合がほしい。
- ・駅舎は、ギャラリー、学習機能、ワークスペース等が融合した日常的に人々が滞留できる新しい場所を目指してほしい。
- ・「鉄道のまち」の歴史を活かした、鉄道モチーフのデザインを取り入れると良い。
- ・鉄道を望むデッキやランニングコースなど、回遊動線を整備してほしい。

コンセプト: 『鉄道のまち 鳥栖』を未来へ受け継ぐ、
(案) 多世代の生活を支える憩いと学びの拠点。



■WG議論ポイント①②に対する主な意見

※第1回ワークショップにて抽出した各エリア毎にほしい機能についてとりまとめた結果。

議論ポイント①「にぎわい・滞留空間の創出」をどう実現するか。

- ・単なる施設整備に留まらず、民間が主体となって長く活気ある運営ができる仕組みづくりを考えてはどうか。
- ・カフェやフリースペースのほか、日常的に子供が集まる空間や子育て世代が安心して過ごせる場を創ってはどうか。
- ・オフィス誘致やロータリー整備を通して、昼間の賑わいづくりと周辺をぐるりと巡って楽しめるような駅前にはどうか。
- ・今後導入する施設や駐車場対策(パーク&ライド等)は、まずは社会実験で様子を見ながら、少しずつ検討を進めてはどうか。
- ・東側だけでなく、西側も含めた「駅周辺全体」としての将来ビジョンを検討しながら進めてはどうか。

議論ポイント② 鳥栖駅西側(駅舎)エリアへの新たな機能導入をどう実現するか。

- ・新たな機能を整備する際には、「既存駅舎の継承すべき部分」などをデザインの工夫で活かしてはどうか。
- ・多額の整備費を考慮し、他都市事例も参考に、関係者間で無理のない費用負担の仕組みづくりを検討してはどうか。
- ・鉄道を眺められるデッキなど、東西の移動や駅周辺の散策そのものがワクワクするような仕掛けを取り入れてはどうか。
- ・ギャラリーや学習機能施設など、単なる交通結節点ではなく、滞在価値のある魅力的な場所を目指してはどうか。

◆今後の予定

第3回鳥栖駅周辺デザインWGは、令和8年9月上旬頃での開催を予定しております。